

不撓不屈

京都府立洛北高校硬式野球部
部活動通信：第20号
発行：MG 今村・西山・吉田
2021年2月18日

野球部 topic1

「ここからが正念場！」

1月中旬、京都府にも緊急事態宣言が発出され、再び部活動の活動時間に制限がかかることになりました。昨年の春のように練習自体が出来なくなってしまうかもしれないという心配もありましたが、2時間という制限の中であれば活動しても良いことになりました。引き続き感染予防対策として日々の検温、使用した道具の消毒、ミーティングやダウンでのマスクの着用などを徹底して行っていきます。

このオフシーズン、まだまだ取り組むべきことがたくさんある中で大幅に時間が削られてしまうということに対し、悔しい思いもあります。しかし、少し楽しみでもあります。これまで「日本一の時間管理」を掲げて取り組んできたからこそ、これまでやってきたことが大きな強みになると思います。チームの指針である「時間は有限、可能性は無限」という言葉にあるとおり、1日2時間という短時間の中で、いかに集中して本気で取り組めるかが今後勝敗を分ける鍵になってくるでしょう。

ライバルも私たちも与えられた条件は同じです。練習や間の移動の効率化を常に追求し続け、短時間の中での焦り方を知っているからこそ、それ以外のことを考えられる余裕は他校に比べて多いのではないのでしょうか。「時間」にこだわり、「スピード」で勝負すると決めたからには、このような状況を味方に付けなくてははいけません。

野球が出来ていることが当たり前では無いことを再確認し、より一層レベルアップしていきましょう！ここからが正念場です！



野球部 topic2

「意識」と「自立」(普段の練習より)

洛北高校硬式野球部には、「課題練」という練習があります。その名にある通り、選手が自分の課題を潰すための練習で、どのような練習に取り組むかは、それぞれが自分で判断しています。Tバッティングや自分のポジションの練習をする選手はもちろん、バントの練習やスライディングの練習をする選手、トレーニングに取り組む選手もいます。

課題練は、主にグラウンド状況が悪い時やオフシーズン、スキマ時間に多い練習で、選手全員が自分のやりたいことを個々に行うので、一人あたりが使えるスペースも限られています。しかし、自分の課題を潰すという点では、自分がしたい練習だけを行う事ができるので、一番効率の良い練習であり、また、練習内容を考えるときに自分に何が必要なのかを振り返ることで、自分を見つめ直す良い機会にもなります。

そこで重要になってくるのが「意識」と「自立」です。まず、意識がなければ、自分のためにあるこの練習は意味を為しません。ただバットを振る、ただノックを受けるのではなく、テーマと意識を持つことがなによりも大切になってきます。そして意識を継続して持つためには、自立が必要不可欠です。自分で考え、計画を立て、時には先生方の力も借りながら最後までやり通す、そのような自立する力を身につけることも、課題練をする大きな目的の一つだと思います。自分の短所を長所に変えるためのチャンス、そして未来に生きる力を身につけるチャンスとして、これからも意識を持って「課題練」に取り組んでいきましょう！



手洗い、うがい、
手指消毒を徹底！
感染予防対策を！